

2019年9月 群馬製作所工場ご視察会 主な質疑応答(要旨)

2019年9月
株式会社SUBARU
IR部SR室

2019年9月11日・12日に開催いたしました株主様工場ご視察会につきまして、当日はたいへん多くの株主様にご出席いただき、非常に活発な質疑応答が行われました。多くのご意見・ご質問をいただいた中から、ご参考にその一部をご紹介します。

Q：顧客のターゲット層や商品の差別化の方向性について教えてください。

A：現在のターゲット層は「人生を積極的に愉しむ」志向のお客様です。「人生や安心をレベルアップさせ、ライフスタイルに合ったクルマを選ぶ方」に合ったクルマづくりを進めています。また、今後シェアリングが進んでも、クルマを「所有」したいと望まれるお客様はこの層だと考えており、個人のお客様にクルマを買っていただく、というビジネススタイルは継続していきます。また今後、様々な装備が追加されても、現在所有いただいているお客様が、お求めやすい価格帯で提供していきたいと考えています。最後に、将来の差別化については、「安心と愉しさ」をさらに高めていくことだと考えており、今後も突き詰めていきます。

Q：今後のクルマのデザインについて教えてください。

A：デザインでは、非常に動きがあり、かつ塊感・安心感があるデザイン「Dynamic×Solid」というデザインフィロソフィーを数年前から具現化しています。次のステップでは、新デザインコンセプト「BOLDER」を採用し、さらに大胆に進化させていきます。「BOLDER」では、フォレスターならフォレスターらしさ、インプレッサならインプレッサらしさを強調し、SUBARUらしさを感じてもらいつつ、車種ごとの違いや距離感も感じていただけるものを目指しています。

Q：シェアリングが進むと、クルマを所有する人が減ると思いますが、どのように対応していきますか。

A：シェアリングが本格化するまでは、まだ時間を要すると考えています。SUBARUは、お客様の「所有」にマッチしたブランドだと認識しています。過渡期では、「所有」をいただくお客様に集中した戦略を取り、SUBARUとお客様との共感度を高めることが重要だと考えています。「SUBARUだからこそ買う」というお客様を増やすことにより、その先のシェアリングの時代が来ても、「SUBARUで移動したい」というお客様を増やせると考えています。これにより、シェアリングを運営する会社からSUBARUのポジションは高いと認識され、SUBARU車を多く仕入れていただくことを目指しています。

Q：環境規制への対応はEVだけでしょうか。EVとターボ、e-BOXERの併用で対応するのでしょうか。

A：環境規制への対応には、EVは必須です。そして燃費のよいPHEV、さらに次世代のハイブリッドも必要です。2020～2040年は過渡期だと考えています。その間は、EVやハイブリッドに加え、ターボも含めたガソリン車との共存が必要だと考えています。

Q：将来、EVとガソリン車をどのように共同生産していくのでしょうか。

A：EV生産とガソリン車の生産は、工程が大きく異なります。組み立ての順番、重さのバランスなどは重要な要素です。現在、EVのクルマとしての開発のほか、EVとガソリン車を並行して生産する案などの検討を進めています。

Q：コネクタ技術の開発は、すべて自社で行うのでしょうか。

A：日本の自動車産業全体に関わるような領域は、アライアンスを活用するなど、他社と協力して開発していきますが、SUBARUらしさを追求する領域は自社で開発し、しっかりと価値を高めていきます。

Q：現行のアイサイトは、自動車業界のなかでどのようなポジションと認識していますか。

A：「ハンズ・オフ（ハンドルから手を放す）」の商品化については、他メーカーが先行している部分があると認識しています。一方、アイサイトは、ステレオカメラを使用することによる対象物との距離・形状・移動速度などの把握の正確さ、0～3km/hといった低速でもコントロールできること、自動追従の細やかさ・違和感のなさ、また、ドライバーモニタリングシステムとアイサイトとの連携、といった高い優位点があると認識しています。

Q：新型アウトバックは、さらに車幅が広がっています。日本の街中でも乗れるクルマを出してほしい。

A：SUBARUは現在、北米市場での販売が最も多いですが、日本市場もたいへん重要であると考えています。車種によって対応を変えており、例えば北米市場で導入しているアセントは、約2×5mの大型車なので、たとえ7人乗りでも日本市場には合わないと考えています。アウトバックも北米市場をターゲットにしています。一方、現在日本市場で受容されているインプレッサとSUBARU XVは、北米市場での成功も視野に入れつつ、日本市場車のみドアミラーの小型化や最小回転半径を小さくするための専用システムを搭載して対応しています。

Q：米国に第2工場を建設する予定はありますか。

A：生産体制については、グローバルでの販売の状況や電動化商品をどのように生産するかなどを勘案し、様々なシミュレーションを行っています。現在、複数ある案のなかで、将来打つべき手としてどれが最適かを検討しています。

Q：障がい者雇用について、どういう職場で働いているのでしょうか。

A：当社は法定雇用率を達成しており、先々上昇する法定雇用率も視野に入れながら対応しています。工場の生産ライン、一般業務のほか、障がいの程度により安全上の観点から生産ラインでは難しい場合には、清掃関係の仕事などに従事しています。また、清掃サービスを行う特例子会社を設立して工場や寮の清掃を内製化するなどにより、障がい者が安全に働ける機会・環境を創出しています。

以上